

第五次環境基本計画（案）について

中央環境審議会総合政策部会臨時委員

井田徹治（共同通信社）

本日は出席させていただく予定だったのですが、緊急の私用が発生し、出席できなくなりました。以下、（案）に関するコメントを文書で提出させていただくことをお許しください。

★「はじめに」について

前回申し上げたように、環境問題をめぐる危機感の表出が全体を通じてまだまだ不十分であると考えます。特に冒頭のこの中から、地球環境がさまざまな危機に直面している、という現実が伝わってきません。それほど分量はなくてもいいので、冒頭部分に地球環境の危機的状況に関する記述があった方がいいと考えます。

一方で、当初から申し上げているように、パリ協定とSDGsが採択された2015年という年がターニングポイントとなっているということへの評価やその後、初めて策定される環境基本計画であるという認識が書き込まれていることはきわめて適切なものであると評価しています。

★P4L30～P5L1 にかけて

カーボンプライシングに関する記述については単なる現状記述ではなく、その導入に向けた検討を早急に進めるべきだとの認識を示すようにもう一步、踏み込んだ表現にすべきだと考えます。

★P9L17～18

「健全で恵み豊かな環境を基盤とし、その上に経済社会活動が存在していることを念頭に」との文言は、これまであった多くの議論に対して、若干、弱く、不明確な表現になっていると感じます。「健全で恵み豊かな環境があつてこそ、その上に経済社会活動が存在し得るということを念頭に」とすべきでしょう。

P10L39～P11L2

この部分の「環境を基盤とし、その上に持続可能な経済社会活動が存在して

いるという役割をそれぞれが担っていると考えられる。」との表現はこれでも
いいように思いますが、プラネタリーバウンダリーに関する表記はフットノ
ートではなく、本文中に置くべきと考えます。

P 2 2 L 6 ~ 8

「持続可能な生産と消費のパターンを確保するため、経済社会システムのイ
ノベーションを実現し、資源生産性や炭素生産性の向上（天然資源投入量や
温室効果ガス排出量を低減させながら経済成長を実現すること）を目指す。」
というのは分かりやすい表現になっていると評価できます。

P 5 5 L 5 ~ 6

「2030 年度の削減目標及びエネルギーミックスとも整合する排出係数
0.37kg-CO₂/kWh の目標の達成に向けて取り組む。」の部分は、諸外国の情勢や
現状の NDC では 2 度目標の達成には不十分であり、パリ協定の中で今後、2
度目標の達成のための削減目標の一層の深掘りが求められているとの事実
に鑑み「取り組むとともに、石炭火力発電の一層の削減、廃絶に向けた可能性
を探る」など一歩踏み込んだ表現とするべきであると思料します。

P 5 5 L 1 6 ~ 1 7

代替フロン削減の表現が盛り込まれたことは評価致しますが、「包括的な対策
により、排出抑制を推進する。」では不十分で「包括的な対策の強化によっ
て、排出削減を進める」とすべきと考えます。

(以上)